

令和3年3月5日

地域活動を実施される皆さまへ

神戸市企画調整局つなぐラボ

緊急事態措置の解除後の地域活動に関するお願い

平素より新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策をとりながら、地域活動に取り組んでいただきまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症について、令和3年3月1日から兵庫県を含む6府県が緊急事態措置を実施すべき区域から除外されました。

しかしながら、兵庫県内でも 継続的に感染が確認されている変異株の影響を注視していく必要がある中、感染再拡大（リバウンド）を防ぐためには、ご自身の健康や行動に注意していただき、家庭や施設等にウイルスを持ち込まないよう、引き続き、感染を避けるための行動が求められています。

このため、地域活動に取り組む際には、感染防止対策の徹底に取り組んでいただくよう、ご理解・ご協力をお願いします。

記

- 「緊急事態措置の解除後」は、別紙のとおり、ご対応いただきますようお願いいたします。
- 本通知は幅広く地域活動の中止を求めるものではありません。感染防止策の基本的な考え方をまとめた「地域活動についての新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」(※)を参考にして、感染防止のために必要な措置を講じた上で活動の継続をお願いします。
- 市の助成金等を利用している事業の実施に当たっては、それぞれの制度の担当課の指示に従って実施いただくようお願いいたします。

※「地域活動についての新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」(令和2年10月6日版)

<https://www.city.kobe.lg.jp/a56164/kurashi/activate/support/covidtaisaku.html>

企画調整局つなぐラボ

電話 (078) 322-6492

<緊急事態措置の解除後の対策について>

	緊急事態措置の期間中 (令和3年1月14日～3月7日)	緊急事態措置の解除後 (3月8日～)
活動時間	20時以降の活動の自粛をお願いします。	制限なし
3密を避ける	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内にあつては定員の半分の人数（通常時の半分または最小1mの間隔）で活動しましょう。 ・屋外にあつては人と人との距離を十分に確保しましょう（できるだけ2m）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する部屋の定員までの人数。ただし、大声や声援等を出すこと、飲食をすることが想定される活動は定員の半分の人数（通常時の半分）を目安とし活動しましょう。 ・定員が設定されていない場所では、対人距離を確保して活動する（最低1m）。 ・屋外では人と人とが接触しないようにしましょう。 <p>※ただし、カラオケ等の歌唱を伴う活動は下記のとおり控えてください。</p>
飲食を伴う活動（給食や喫茶など）	<p>マスクをはずす機会をなくすため、感染拡大の主な起点となっている飲食については、人数に関わらず徹底して避けてください。（1月18日以降に開催されるものについて開催の延期・中止をお願いします。）</p> <p>※水分補給や糖分補給は適宜実施してください。</p>	<p>引き続き、飲食を伴う活動は控えてください。</p> <p>※水分補給や糖分補給は適宜実施してください。</p>
歌唱を伴う活動（カラオケや民謡など）	<p>多くの飛沫が飛ぶ可能性があるカラオケや民謡など歌唱を伴う活動を控えてください。</p>	<p>引き続き、歌唱を伴う活動を控えてください。</p>

※感染防止対策のお願い事項

①「大人数での会食は控える」こと。また、「少人数の食事でも会話を控え、距離をとる」こと。

- ・真正面を避け、斜め向かいに離れて座る。
横並びや真正面に座る際は、1メートル以上の距離をとる。
- ・会食の参加者を「いつも近くにいる4人まで」に絞る（同居家族は除く）。
- ・食事の際は、深酒・大声を避けて短時間で済ませる。

②年度末年度初めに向けて、卒業旅行、謝恩会、歓送迎会は控え、花見は宴会抜きで行うよう、ご協力をお願いします。

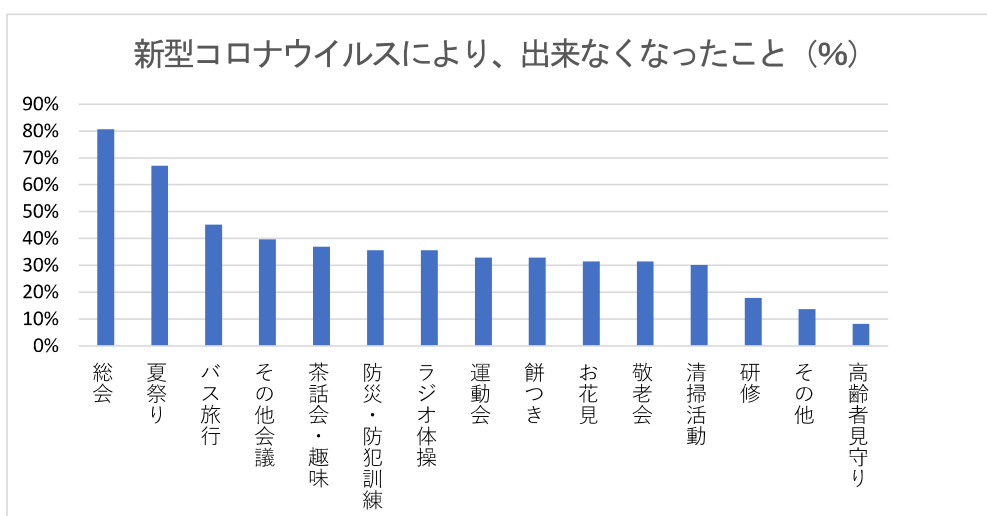
自治会の新型コロナウイルス対応に関するアンケート・レポート

2020年12月

神戸市自治会連絡協議会／神戸市コミュニティ相談センター

新型コロナウイルスはコミュニティ活動にも大きな影響を及ぼしています。皆様の地域でもいろいろとご苦勞をなさったり、工夫をなさったりしておられることと存じます。

神戸市自治会連絡協議会では、2020年10月に当会の各区役員の皆様をお願いして、新型コロナウイルスにどのように対応されているかというアンケート調査を行い、73名の自治会および自治連合会長様からご回答をいただきました。

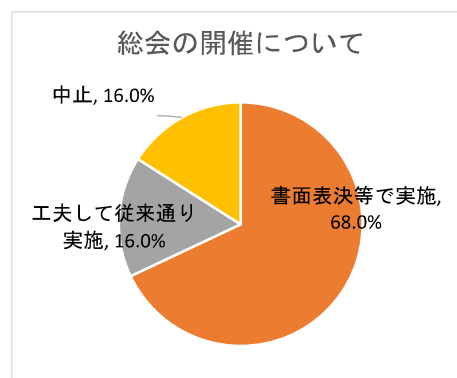


■新型コロナウイルスで出来なくなったことは？

新型コロナウイルスは、大勢が集まり3密が懸念される行事に大きな影響を及ぼしました。81%の自治会が「総会」が出来なくなったと答えました。「夏祭り」が出来なかったと答えたのは67%、それに「バス旅行」(45%)や「その他会議」(40%)が続きました。

■総会と役員会開催は？

総会は「書面決議」を採用、もしくはこれに準じる形で、集合せずに実施したという記述が大半を占めました。役員会開催は一定期間中止または回数減、参加人数を絞り3密対策を行ったうえで実施したという記述が大半でした。



■高齢者への対応は？

子どもや高齢者対象の行事も中止となりましたが、高齢者に対しては様々な配慮がなされたようです。

- ・「高齢者に対して、自治会役員や民生委員などで協力して声掛けを行っている」

- ・「敬老の日のお祝い配布時に声掛けをした」
- ・「敬老会は少人数でおしゃべりをして弁当を持って帰ってもらった」
- ・「よろず相談窓口を設置した結果、一人住まいの高齢の女性より、一週間ぶりに話が出来たのがうれしかったという声を聴いた」との記述がありました。

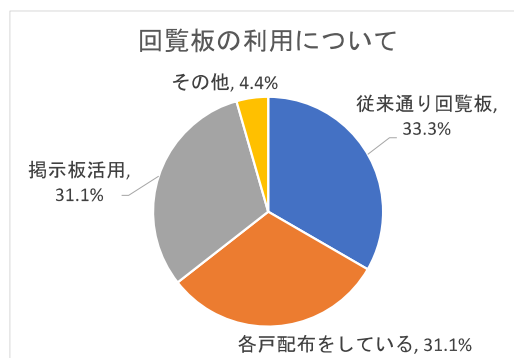
■集金は？

集金については、「会費の集金は日時の設定と封筒に入れて手渡す方法を取り、相手と言葉を交すことを少なくした」や「マスクをし、2mの間を開けて集金をした」など、ソーシャルディスタンスに配慮して集金した様子がうかがわれました。また、「銀行振込や銀行引き落としを導入している」「集金時期を例年とずらした」という回答もありました。

■情報伝達は

回覧板による情報伝達がこの時期難しくなっていることで、掲示板を活用し、重要なことについては全戸配布するという自治会も増えているようです。

ネット活用については、委員の連絡はLINEを使っているという記述もありましたが、一方で、高齢者が多く、オンラインは難しい、従来メディアで良いという意見も多く見られました。



■不安に思っていることは？

不安に思っていることの一つは、家にこもることによって、高齢者の心身の健康が心配。もう一つは、住民間の交流の場がなくなることで、コミュニティが希薄になることへの心配という声が多く聞かれました。地域交流を元の状態に戻せるかどうか心配だという声が上がっており、現実にごみのマナーが悪くなっているという記述も見られました。

■工夫したことは？

コロナ対策の工夫としては、前述の「自治会館閉館中に役員が交代でよろず相談窓口を開設した」という記述や「3密を避けるために会議等を2回に分けて開催した」、「所有の公会堂のスペースを広げる工事を行った」という記述もありました。活動が難しいこの期間に「ふるさと検定を実施予定」という地域もありました。「コロナ対策をしながら、2ヶ月に1回の連合自治会正副会長会議で、コロナ問題、ゴミ、ベトナム、猫問題などを検討した」など、前向きな記述も多く見られました。

地域には自治会だけでなく、ふれまち、婦人会、老人会、民児協、青少協の団体があるため、協力して対応しているとの心強い記述も見られました。

以上はアンケートの主要な部分の抜粋ですが、さらに詳しい内容をお知りになりたい方はコミュニティ相談センターまでお問い合わせください。

with コロナ 地域活動ひとこと事例

現在新型コロナウイルスの影響で、地域活動をこれまで通りの形式で実施できない状況が続いています。

このような中で、地域の皆様が感染症対策を講じながら実施された地域活動の取り組み事例をご紹介します（他都市の事例も含まれます）。

併せて、市内の皆様よりご提供いただいた事例につきましても、随時追加してご紹介します。

「ひとこと事例」を参考にしながら、新しい生活様式を踏まえた地域活動を継続していただければ幸いです。（地域ごとに活動方法は異なりますので、参考になる部分をご活用ください。）

○地域団体の運営上の参考事例

【総会・役員会等の会合について】
・書面表決や委任状を活用して対面の機会を減らした。
・定例会を、必要な時のみの開催に変更した。
・通常の会議室では密集となるため、2部屋にわける、もしくはいつもより広いスペースを借りるなどして、人との距離を確保した。
・役員会議は、LINE のビデオ通話、ZOOM の会議等を用いて実施した。LINE や ZOOM の使用法は事前に役員に配布した。
・会議時間を短縮するために、資料を事前に配布した。
・飛沫感染防止のため、説明する人の前にアクリルパーテーションを設置した。
・短時間での実施、換気を徹底する等の工夫をした。
・会議をテーマごとに分散開催した。
・会議の案内をメールで行った。
・内容によっては電話連絡のみの情報共有をした。
・YouTube で総会の映像を配信し、質疑はメールや電話で対応した。
【会費関係について】
・実施できる事業が少なくなるため、自治会費の徴収を免除した。
・生活が困窮している家庭への自治会費等の徴収について、支払期限を延長したり減免したりする等の配慮をした。
・自治会費の納入について、できるだけ銀行口座への振込を会員に依頼した。
【回覧板等の情報周知について】
・回覧板による周知を掲示板による周知に切り替えた。
・回覧板を少なくし、各戸への配布で対応した。
・LINE を使った情報共有の仕組みを作り、回覧を減らした。
・従来は紙媒体で発行していた広報紙等について、希望する世帯はメール配信に切り替えた。
・マンションのエレベーター内に掲示するなど、例年よりこまめな情報発信を実施した。
・地域団体として LINE 公式アカウントや Facebook を作成し、情報を発信している。
・地元飲食店の紹介など、耳寄り情報を広報紙に掲載するなど、これまでよりも広報に注力した。

○活動、イベントの参考事例

【共通】
・開催場所を分散し、参加者を減らした。
・小規模にするため、複数回に分けた。
・密にならないように、事前申込制にした。
・会場で3密警告チラシによる啓発を行っている。
・参加者に配布するマスクを準備した。
・人が集まる行事を実施するときは、受付で検温を実施し、参加者名簿を作成する。
【屋内活動】
・飛沫感染につながる歌唱プログラムを控え、時間を短縮した交流会を開催した。
・講演会をオンラインで開催し、遠方居住の講師に依頼した。
・飲食を伴う活動を弁当や茶菓子の持ち帰りに変更した。
・文化祭について、長期間のギャラリー展示や、HP上で写真や動画を掲載する形で実施した。
・例年実施している小学生向けの防災教室を、パネル展示、DVD上映に変更した。
・地域行事でのステージ発表を事前に撮影したビデオの上映に変更した。
【屋外活動】
・草刈りを地域全体では実施せず、戸別に実施した。
・地藏盆について、ゲームやレクリエーションは中止したが、お寺のお参りは行い、子どもへのお菓子だけは別途お届けした。
・地藏盆は中止としたが、回覧でお花などのご厚意を呼びかけたところ、お庭のお花や折り紙やお賽銭などが集まり、地藏堂がお花で満たされた。
・全世帯に短冊を配り、マンション入り口に設置した笹に住民が各自飾りつけを行うことで七夕飾りを行い、集まらない形でイベントを開催した。
・避難訓練について、緊急時に分散避難が必要となるため、従来の内容を変更した。
・避難訓練を、安否確認や緊急連絡網などの情報伝達訓練に変更した。
・避難訓練に代えて、町内防災マップの改訂を行った。
・地域の運動会に代えて、ウォークラリーなどの別の形態で行うことを予定している。
・年末の火の用心の夜回りは大人だけで行った。
・従来は集会所内で行っていた音楽イベントを、集会所前の広場で行った。
・人との距離を空けながら、広場で「花の寄植え鉢創作教室」を開催した。
・ラジオ体操を人と人との間隔をあけて実施し、継続している。
【高齢者支援の活動】
・高齢者の運動量が減ったことを受け、体操動画が掲載されている市HPを案内した。
・簡単な体操を印刷し、高齢者世帯に配布した。
・高齢者の見守りは、戸内に入らない訪問や電話などに変更して実施した。
・認知症予防のため、クロスワードパズルなどの頭の体操グッズを配布した。
・敬老会を各家庭にお祝いの品を届ける方法に変更した。

・敬老会では5人ずつの参加で、ちょっとおしゃべりした後、お弁当を持って帰ってもらった。
・屋外でのドライブスルー形式の敬老会（抽選と福祉相談）を実施した。
・コロナウイルス感染症拡大防止啓発のための日常生活でのポイントを記載した広報物を高齢者全員に配布した。
・高齢者宅を2軒、同時にスタッフが1人ずつ訪問し、高齢者同士をLINEでつなぎ話す機会を作った。
【子ども支援の活動】
・休校中の子どもたち向け事業を実施した。（料理フォトコンテスト、塗り絵の配布等）
・分散登校期間中の登下校の見守りをした。
・クリスマス会は時間を三部に分け、事前申し込み制にて開催する予定。
・例年より定員を減らし、野菜収穫や木工作品作りなどの体験教室を開く予定。会場までのバスは定員の半分までの乗車とし、往復の回数を増やす。
・子ども食堂を再開したが、一方通行の動線をつくり、弁当のテイクアウトのみとした。
・子どもやその保護者への支援として、図書カードを進呈した。
・子育て世帯に対して、家でできる遊びのリストや、料理のレシピなどを郵送した。
・小中学校の卒業・入学式では来賓の出席ができなかったので、掲示板にお祝いのポスターを作成掲示した。
【その他の活動】
・家庭訪問をして募金活動を行い、担当者にはマスクを配布した。
・手作りマスクコンテストを開催した。
・コロナ禍でも開催できる新たな事業（自宅のできるヨガのDVD作成・販売、親子参加型の謎解きウォークラリー等）を実施した。
・サロンのボランティアが、毎月1回健康チェック、安否確認等について電話で対処した。
・防災マニュアルを作成し、自宅訓練の企画に変更した。
・自宅のできるハーバリウムキットを作成し、配布した。
・自治会館を一定期間閉館し、その間役員が交代で「よろず相談窓口」を開設した。

○その他感染症対策の工夫

・非接触型体温計や手指消毒用のアルコールを購入した。
・集会施設への飛沫防止シールドを設置した。
・地域団体から住民へ手作りマスクを提供した。
・独自に活動再開マニュアルを作成した。
・施設の洋式トイレに便座クリーナーを設置した。
・施設に自動水栓やセンサーライトなどの導入を検討している。
・オンライン会議やセミナーのために、ウェブカメラやプロジェクター、スクリーンといった設備の購入を検討している。